

# バイオフィオレスト構想

## 新たな研究が進んでいます

○熊本県農業研究センターを中心に、九州東海大学や崇城大学などと連携し、県産大豆の機能性に注目した食品や、加工残さを活用した飼料などを開発中です。

○熊本大学や熊本県立大学などを中心に、海藻を利用した環境浄化技術や海藻の機能性成分を利用した製品を開発中です。

## 産学連携で、革新的な開発・商品化が進んでいます

「くまもとバイオビジネス大賞」を創設し、バイオテクノロジーを活用した産学連携による研究開発の成果の商品化・事業化を進めています。

## 「平成十七年度くまもとバイオビジネス大賞」受賞企業

### 大賞受賞

つちやゴム(株)(上益城郡嘉島町)は、熊本大学大学院医学薬学研究所との共同研究により、特定の微弱パルス電流と一定の熱を同時に体内に流すことができる特殊合成ゴム装置「バイオメトロノーム」を開発。この装置を生かし、内臓脂肪を効果的に減らす医療器具の製品化を目指しています。



バイオメトロノーム

### 優秀賞受賞

(株)ビッグバイオ(熊本市)は、長崎大学医学部との共同研究により、汚水で発生するボウフラの成長を抑える水質浄化剤を開発。マリアア・デング熱・西ナイルウイルス病などの感染症の広がりを未然に防ぐ商品として、アジア、アフリカ向けの輸出が予定されています。



県産農産物の研究開発拠点「熊本県農業研究センター」(合志市)

## バイオ分野の産学連携をお手伝いしています

大学の研究成果を企業と連携して実用化のお手伝いをしていきます。新たな連携や共同研究などが生まれるよう、研究者と企業が気軽に交流できる、「バイオイブニングカフェ」を毎月開催しています。バイオ分野は医療・食品・環境など幅広く、例えば環境分野では、水俣・芦北地域で、地元漁業者や高校生とも一緒に、海藻を利用した環境再生に取り組んでいます。研究者や企業との信頼関係をどのように築いて支援できるかが今後の課題ですね。



(財)くまもとテクノ産業財団 科学技術コーディネーター

森下 惟一 さん



バイオイブニングカフェ

# ものづくりフォレスト構想

## 熊本の知恵、技術が全国で輝いています

中小企業庁の「元気なモノ作り中小企業300社(平成十八年)」に県内から三社が選定されました。

○書類などを保管する移動棚の生産が国内シェア55%を占める金剛(株)(熊本市)が開発した、省力・省スペース・省エネルギーの「移動式棚」は、国立国会図書館をはじめ全国で使用されています。

○(株)エイムテック(上益城郡益城町)は、産学連携により、世界で初めて温度補正が可能なガス漏れ検査装置を開発しました。

○(株)スカイリモート(熊本市)は、GPS※による自動飛行装置を搭載したカイト(凧)プレーンを開発し、災害時の空からの情報収集活動をはじめ多方面で使われています。

※GPSとは、人工衛星を利用して自分が地球上のどこにいるのかを正確に割り出すシステム。

## カーアイランド九州の構築に向けて

自動車生産拠点が集積している北部九州。近年、工場の増設が相次ぐなど、国内有数の生産拠点となっています。県内では、自動車部品製造など多くの関連企業が立地し、半導体に次ぐ主要産業として伸びつつあります。県自動車関連取引拡大推進協議会では、自動車産業に参入意欲のある県内企業を対象に、商談会・セミナーの開催や、関連企業OBの受注アドバイザーによる現場指導など、自動車産業に求められる生産管理や品質管理の向上を図っています。

○自動車部品メーカーであるアイシン九州(株)(下益城郡城南町)では、主にトヨタ車のサンルーフ、パワーシートをはじめ、数多くの種類の自動車部品を生産しています。地場企業への技術指導や、新規参入・取引拡大のための育成に積極的に取り組むほか、生産拡大に伴う工場の増設などにより、多くの地元雇用が生まれています。

## 次世代マグネシウム合金の研究開発がスタート

軽量のマグネシウム合金は、二酸化炭素排出抑制・省エネルギー、安全性・利便性の向上のため、自動車、電気製品、福祉用具などへの利用が期待されています。熊本大学が開発した合金は従来の合金に比べて数倍の耐熱性・強度を有する画期的なものです。これを核に産学行政連携による国家プロジェクトがスタートしました。研究開発の成功と早期の実用化による産業への貢献を目指しています。



熊本大学 学長 崎元 達郎 さん



自動車部品生産ライン



国立国会図書館で使用されている「移動式棚」

お問い合わせ先

熊本県産業支援課 産学連携推進班

☎ 096-333-2320 FAX 096-384-5385

電子メール sangyoshien@pref.kumamoto.lg.jp